令和元年度　学校評価表

徳島県立つるぎ高等学校

重点課題	重点目標 全体レベル	重点目標 下位組織レベル		活動計画		評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
人権教育の推進	全ての教育活動を通じて，人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する。	①	生徒の自立と自己実現を図る。	1	「人権の日」を実施し，日常生活の中で生徒の人権意識の涵養を図るように努める。	生徒アンケートで「人権の日が有意義であった」を80％以上にする。	達成度は89％であり，生徒の人権意識の涵養に一定の成果があった。	A	A 「人権の日」と「ホームルーム活動（人権）」に対する生徒の評価は，いずれも評価指標を達成できた。 大島青松園訪問・美馬フィールドワークやその他の教職員研修の評価も評価指標を達成できた。この結果を受け，本校の人権教育6年目は，評価指標のとおり達成できた。ただし，人権関係の行事対する保護者の参加が実現しなかったことが残念であり，次年度の課題である。	積極的に人権教育が行われていると感じられる。これからも人権意識高揚に努めてほしい。 保護者や地域の方々が参加できる人権教育講演会や研修会を実施するにあたり，参加率をあげるには具体的な改善策を吟味する必要がある。保護者は，平日行う行事に毎年参加するのは困難だとしても，3年間で1度だけでも，行事に参加してもらえるよう呼びかけを行うなどの方法もあるのではないか。 地域との連携を深める事は大切なので，引き続き，ホームページ等を利用して，保護者や地域の方々の参加がしやすい環境作りを行って欲しい。	差別の実態に学ぶ体験型の人権学習を進めるため，次年度も，大島青松園でハンセン病回復者と生徒・教職員・保護者の交流会を進めていく。特に，研修行事において，積極的に保護者が参加できる仕組みを考える必要がある。 また，美馬フィールドワークも継続して実施し，地域や実態に学ぶ教職員の研修を深めていく。そして，教育活動全てにおいて，あらゆる機会をとらえて，人権について考える機会を積極的に取り入れていく。
				2	「ホームルーム活動（人権）」を実施する際に，普遍的な視点と個別的な視点の双方から取り組み，個別人権課題を積極的に取り扱う。	生徒アンケートで「ホームルーム活動（人権）が有意義であった」を80％以上にする。	達成度は93％であり，普遍的な視点と個別的な視点の双方から取り組むことができた。	A			
		②	教職員研修の充実を図る。	1	美馬フィールドワークを実施し，地域の方々の思いを受けた人権研修に取り組む。	教職員アンケートで「美馬フィールドワークが有意義であった」を80％以上にする。	達成度は96％であり，地域の方々の思いを一端ではあるが，感じ取ることができた。	A			
				2	人権教育に関する研究授業・研究協議に，全職員で取り組む。	教職員アンケートで「研究授業・研究協議が有意義であった」を80％以上にする。	達成度は95％であり，研究授業・研究協議が自分の授業に生かされた。	A			
				3	ホームルーム活動（人権）で，担任・副担・所属によるティームティーチングを2回実施する。	教職員アンケートで「ティームティーチングが有意義であった」を50％以上にする。	本年度，全体としてのティームティーチングは実施しなかったが，一部では正副担任の先生で協力して実施していたクラスもあった。	B			
		③	学校・家庭・地域の連携の推進を図る。	1	保護者や地域の方々が参加できる人権教育講演会や研修会を実施する。	人権教育講演会や研修会に，保護者や地域の方々から10名以上の参加を得る。	保護者に案内できる機会はあったが日程等の整合性がとりにくく，参加者はなかった。今後の課題である。	C			
				2	異校種間交流の充実に努める。	特別支援学校にユニバーサルデザインの考え方を取り入れた教具を提供する。	異校種間交流ではないが，3年電気科が課題研究で，災害時に避難所で使用できる「明かりの巨樹」の作成に取り組み，照明デザインコンテストで電気技術協会賞を受賞した。	A			
		④	生徒の自主活動の活性化を図る。	1	美馬高校生友の会や「中・高生による人権交流事業」に積極的に参加する。	美馬高校生友の会に年間8回以上参加する。 「中・高生による人権交流事業」西部ブロック実行委員会及び生徒部会に，年間6回以上参加する。	美馬高校生友の会・七の会，「中高生による人権交流事業」など全ての自主活動に参加することができ，人数も増えた。また，生徒の中には役員になり積極的に活動する者もいた。	A			
		①	主体的に学習に取り組み，他の人と協働しながら学ぶ態度を育てる。	1	全ての教科で学習目標を明確にし，学習内容の意義を自覚させることで，生徒が主体的に学ぶ意欲と態度を充実させる。	生徒アンケート「主体的に授業に取り組むことができたか」を80％以上にする。 職員アンケート「授業中，ICTの活用やアクティブラーニング等による対話的な授業の実践に努めたか」を80％以上にする。	生徒アンケートでは79％の生徒が主体的に授業に取り組むことができたと答えた。職員アンケートでは，83％が実践に努めたと回答した。	A	A 生徒たちは提出物の期限を守り，授業に真面目に取り組んでいる。自らの進路決定に向けさらなる精進を期待したい。職員の電子黒板の利活用の面では工夫と改善が進んでいる。 基礎学の時間はクラス全員で同じ課題に取り組む貴重な学習時間となっている。学年毎クラス毎に資格取得や就職試験対策に活用され，有効に活用できている。 家庭学習時間調査は，学年末考査が実施できなかったので，12月の期末テストまでの結果である。3年生は，進路決定後に気持ちがゆるんだのか，家庭学習時間は少なく	昨年度の提言が活かされ，今までの事に加えて新しい挑戦がなされており，生徒も主体的に取り組めている。工業と商業が連携した学習や，各種資格取得は，本校教育の根幹のことであり，十分な成果をあげられている。 また電子黒板の利用が促進され，生徒にとってわかりやすい授業が展開できているように感じる。 難関資格では，電験3種では2名の合格者，全商3種目1級	本校のICT環境（電子黒板，生徒タブレット等）を利活用した教材の作成やデータベース化を推進し，生徒の思考力・判断力・表現力を育て，問題解決能力を身につけていきたい。なお，家庭学習のサポートとして，学びボケットの活用を推進していきたい。 また，新学習指導要領の年次進行に備えて，新しい教育課程の作成や評価基準の見直しについて準備を進めていきたい。
				2	各教科における調べ学習や読書会等をとおして学校図書の計画的な利活用を図り，生徒の主体的，意欲的な学習活動や読書活動を充実させる。	各クラス年1回以上図書室を利用し，学習活動を行う。 読書会を年1回以上企画する。	達成できている。	A			
		②	基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる。	1	「基礎学」（朝15分間）の時間を計画的に実施し，基礎学力の定着・向上を図る。	生徒アンケート「基礎学の時間は有意義だった」を85％以上にする。	生徒の89％が有意義だったと答えた。	A			
				2	テスト前日の家庭学習時間調査を行う。	テスト前の家庭学習時間調査で「平均学習時間を対前年度10％増（1年生は入学当初より10％増）」にする。	1年生入学時22％増1．8h→2．2h 2年生2％増2．3h→2．35h 3年生10％減2．9h→1．8h	B			

重点課題	重点目標 全体レベル	重点目標 下位組織レベル		活動計画		評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
学習指導の充実	基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え，これらを活用し，主体的・対話的で深い学びを実践するための指導方法の工夫・改善を図る。	③	知識・技能を活用して，課題の解決を目指し，自分の考えを表現する態度を育む。	1	各種資格の学習をとおして，知識技能を身に付けるための学習方法を習得するとともに，自らの職業意識を高め，進路の方向性を見いだす力を養う。	各学科で基礎・基本となる資格検定を設定し，1年次において取得率85%以上にする。	(電)第2種電気工事士　100% (電)工事担任者DD3種　71% (機)計算技術検定3級　100% (建)計算技術検定3級　100% (商)全商3級5種目　64% (地)電卓検定3級及び ビジネス検定3級　95．8%	A	なってしまった。 基礎基本となる資格検定の取得では電気科と商業科の一部の資格検定において目標を達成できなかったが，1年間を通して生徒たちはよく頑張っていた。次年度の活躍を期待したい。 難関国家資格・検定の取得では，工業科，商業科とも目標を大きく上回る大躍進を遂げることができた。 課題研究の自己評価では，学んだ知識や技術を活かして，仲間と協働しながら課題の解決に取り組めたことが高い満足度につながっている。 各科の地域貢献活動において，工業科では洲本城ジオラマ製作を行った。商業科では，地域の製材所と連携し巨樹王国ツアー等を行い，ビジネスアイデアコンテストで優秀賞を受賞した。 アロマ6次産業化プロデュース事業は，各科の特色を活かした取組を行った。地域の方に役立つことができたという実感を得たことが生徒の自己有用感向上につながったと受け止めている。	では13名の資格取得者を出すなど大変素晴らしい成績を上げている。引き続き頑張ってほしい。	
						難関国家資格・検定試験の受験を奨励し，地域社会の発展に貢献できる技術者の育成を目指す。 第三種電気主任技術者試験合格 1名以上 ジュニアマイスターゴールド取得 3名以上 2級土木施工技術者試験合格 1名以上 2級建築施工技術者試験合格 1名以上 全商3種目1級資格取得 5名以上	第三種電気主任技術者試験合格 2名 ジュニアマイスターゴールド取得 8名， ジュニアマイスター特別賞受賞 1名 2級土木施工技術者試験合格 4名 2級建築施工技術試験合格 4名 全商3種目1級資格取得 13名	A			
				2	工業と商業が連携して，地域の資源を生かした教育活動に取り組むとともに，その成果を機会を捉えて県内外に発信する。	学習の成果を各科の発表会や課題研究概要集の形で発表し，生徒の自己評価シートによる目標達成度を85%以上にする。	3年生の91%が課題の解決に向け主体的に学習に取り組めたと回答した。	A			
						各科の専門を生かした地域貢献活動に取り組み，生徒の自己評価シートによる目標達成度85%以上にする。	地域貢献活動に取り組んだ生徒の90%が目標を達成したと回答した。	A			
キャリア教育の充実	生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け，その基盤となる能力や態度を育成する。	①	自己の特性を理解させ，自らのあり方・生き方を考えさせる進路指導の充実を図る。	1	進路に関するHR活動及び，進路相談を計画的に実施する。	生徒・保護者アンケート回答での「進路指導が役に立っている」の評価を85%以上にする。	生徒の92%，保護者の93%が「役に立っている」と回答している。	A	A 就職希望者全員が内定を得ることができたのは，旧2校をはじめ，つるぎ高校の卒業生が全国各地で長年に渡って活躍されているお陰である。しかし，その背景には長年に渡り保護者・生徒・教職員が一丸となって営々と築いてきた本校の教育実績がある。 また進学についても，個別指導に重点を置いた，生徒個々の実力に見合ったきめ細かい指導の結果，ほぼ希望した大学等に進学できた。	地域の人たちからは，進路指導がしっかりとしている学校という印象である。生徒一人一人の進路実現に向けて，引き続き，きめ細かな指導に取り組んでほしい。 現在，大学生はコロナウイルスの影響もあり，内定取り消しが出たりしている。経済状態を勘案しても高校生にとっても，来年度は就職が困難になるとも考えられるので，来年度はさらに進路指導の充実に努力してほしい。	キャリア教育を1年時より継続的に実施し，自分らしい生き方を実現するための力を育成していく。また，インターンシップを奨励し，職業観・勤労観の充実に繋げていく。 企業選択時のミスマッチを可能な限り少なくできるよう，進路に関する情報を積極的に発信し，生徒・保護者の進路選択に役立てるように努める。
				2	進路説明会・進路通信をとおして，生徒・保護者に進路情報を提供する。	進路説明会と進路通信を，年3回以上発行する。	進路説明会を開催した。 進路通信を，年3回発行した。	A			
		②	望ましい勤労観・職業観を育成し，生徒の希望・能力・適性に応じた，進路の実現を図る。	1	三者面談や個別指導などをとおして，生徒・保護者の希望・適性に応じた進路指導を実施する。	「希望・適性に合った進路決定ができた」の生徒アンケート回答を85%以上にする。	生徒の96%が，「自分の進路結果に満足している」と回答している。	A			
				2	SPIなど，学力試験の変化に対応した，模擬試験を実施する。	就職試験(1次)での内定率を80%以上にする。	就職試験(1次)での内定率は，95.0%であった。	A			
		③	進路開拓を推進し，進路先の確保に努める。	1	企業訪問を実施し，就職求人数を確保する。	訪問企業数を80社以上，求人数を300人以上にする。	訪問企業数は81社で，求人数は1,600人以上であった。	A			

重点課題	重点目標 全体レベル	重点目標 下位組織レベル		活動計画		評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
生徒指導の充実	学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開し，暴力・いじめのない良好な人間関係づくりと安全・安心な学校づくりに努める。	①	基本的生活習慣を育成する。	1	服装・頭髪検査に合格しない生徒には保護者と協力し粘り強く指導を行う。	頭髪服装検査を年10回以上行う。	評価指標どおり年11回実施した。チェックを受けた者は再検査を徹底し，全員合格した。	A	A 月1回の全校集会で服装・頭髪検査を実施した。校内外での生活指導も徹底し，自他の生命の尊重を特に重視し，非行防止に努めた。特に列車通学生の乗降及び列車内でのマナー等の指導を徹底した。 交通危険箇所での立哨指導をはじめ，毎朝校門前での挨拶の励行など登校指導を行った。各学期に通学別集会，考査期間中の列車指導，警察署等関係機関からの交通安全に関わる講演・講習会を実施し，自転車・原付バイク及び徒歩通学者の交通マナーを呼びかけた。その結果、重大事故に巻き込まれることなく，交通事故件数も0件であった。 本年度も携帯電話のマナーや安全に安心して使用する環境づくりのために，年2回（4月，11月）講師の先生をお呼びし講演会を実施した。犯罪被害に巻き込まれないよう，マナー・モラルについて講演いただき，生徒・教員ともに有意義な講演会であった。	日頃の先生方の地道な指導のおかげで，生徒は全体的に，校内外を問わず明るく挨拶ができ，服装・頭髪などの身だしなみもきちんとできると，地域の方々からの評価は高い。 SNSやインターネットに関するトラブルについては，十分気をつけて指導を行えており，成果も出ている。生徒にとってスマホは身近なものであり，今後トラブルに巻き込まれる可能性もあるので，引き続き，情報モラルなどの指導を行って欲しい。 重大事故は注意していても起こる可能性が潜んでいる。危険を回避できる能力の育成が大切であり，今後も安全教育の充実に努めてほしい。	暴力いじめについての指導も引き続き取り組み，登下校時、校内外の巡視及び各学期の被害調査等を通し，問題行動の未然防止と早期発見に努める。通学途中のマナー・モラルの指導は，集会等をとおして指導し，通学経路や危険箇所等での立哨も併せて継続して取り組んでいく。 SNSは正しいルールでスマホを使用することについて，外部から講師を招聘し，講演会を開催することをはじめ，全校集会，学年集会，HR活動等あらゆる機会を捉えて指導していく。 登下校時の交通安全については，無事故・無違反を目標に，あらゆる機会を捉えルール，マナーの遵守を徹底し指導する。また警察とも連携を密にとりながら指導の強化に努めていく。
				2	遅刻過多の生徒については保護者と綿密な連携を行い指導する。	遅刻者0名の日を年間60日以上にする。	目標日数は達成した。保護者との連携，登下校指導などの効果が見られた。	A			
		②	交通安全意識の高揚と交通安全マナーの向上をめざし，交通安全教育の推進を図る。	1	JR貞光駅から校門までの交通危険箇所での立哨指導を行う。特に下校時の巡視を徹底する。	登校下校の立哨指導を授業日の95%以上行う。	立哨指導を100％実施できた。特に駅から通学路，踏切，校門までの登下校指導は徹底できた。	A			
				2	通学別集会を各学期毎に行い，マナー・モラル向上を意識し，登下校ができるように指導する。	交通安全行事(通学別集会・交通安全講習他)を年5回以上実施する。	1，2年生は7回，3年生は8回実施した。交通事故及び関連指導も0件であった。	A			
		③	良好な対人関係を構築できる社会性を育成し，暴力いじめ等重大な人権侵害を未然に防止する態勢を整える。	1	各課において道徳教育の目標を定め，道徳的な心情，判断力，実践意欲と態度などの道徳性を養う。	各課・各学年において，それぞれ具体的な取組を行う。	全校集会或いは学年集会時に徹底した指導ができた。	A			
				2	無記名による調査を実施し，暴力・いじめにつながる行動などを把握し対応する。	暴力・いじめ等に関する無記名調査を年3回実施する。	評価指標どおり3回実施できた。各学期に実施することができ，職員会議で共通理解を図り，HR担任との連携を密にとり対応できた。	A			
				3	携帯・スマホを適切に使用するため，全校・学年集会において常に注意喚起を促す。有害サイトへのアクセス，誹謗中傷などマナー・モラルに反する書き込みをしないよう指導を徹底する。	携帯・スマホ安全教室（講演）を年2回以上実施する。	評価指標どおり（4月：県警,12月：NTTドコモ(株)）年2回実施できた。マナー・トラブル対処法などについて学習できた。	A			
主権者教育・消費者教育の推進	政治や選挙制度に対する理解や参加意識を高め，自ら考え，自ら判断する主権者を育成する教育の充実を図る。 環境や社会に配慮した消費者教育の充実を図り，主体的に取り組む態度を育成する。	①	政治や選挙制度に対する理解や参加意識を高め，自ら考え，自ら判断する主権者を育成する教育の充実を図る。	1	主権者教育を推進する上で，教員が留意すべきことについての共通理解を図るための研修を行う。	主権者教育に関する研修を，年2回実施する。	主権者教育に関する研修を，2回以上実施できた。	A	B 消費者庁作成教材「社会への扉」を活用した授業を行い，社会において消費者として主体的に判断し，責任を持って行動できる力の育成を目的とした。「学んだことを今後の生活の中で役立てるか」のアンケートでは，「少しできる」も含め「できる」と答えた者が73．9%だった。	主権者教育を進めることで，地域の課題を自ら考え，みんなと協力して主体的に解決できる能力を育んで欲しい。 2022年には，成人年齢が引下げられる。高校の成人教育にも期待がかかるので，政治への関心が高まるように，投票率が上がるように，若者の育成に努めてほしい。	教職員に主権者教育の研修を適宜行い，共通理解を図る。 主権者教育に関する授業を計画的に実施し，社会において消費者として主体的に判断し責任を持って行動できる能力を育むことを目標とする。 消費者教育に関する授業を計画的に実施し，社会において消費者として主体的に判断し責任を持って行動できる能力を育むことを目標とする。
				2	政治の仕組みや知識の習得だけでなく，主権者として自覚し，他者と連携・共同しながら地域の課題解決を主体的に担うことができる力を身につけさせる。	各教科・HRで主権者教育に関する授業を実施し，アンケートにおける理解度を65%以上にする。	HRでは，主権者教育を実施できたが，各教科においては，あまり実施できなかった。	B			
		②	持続可能な生産と消費を重視した活動において，主体的に取り組む態度を育成する教育の充実を図る。	1	自立した消費者をめざし，消費者の権利と責任を理解し，消費者問題に取り組む姿勢を養う。	消費者教育に関する授業を実施し，アンケートにおける理解度を90%以上にする。	2.年生全クラスを対象に消費者庁作成教材「社会への扉」を活用した授業を行った。	B			
				2	企業の社会的役割やソーシャルマーケティングを学習し，消費者教育の充実を図る。	消費者教育に関する授業を年1回実施する。	消費者教育に関する授業は，2.年生を対象に年1回実施した。	A			

重点課題	重点目標 全体レベル	重点目標 下位組織レベル		活動計画		評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
特別活動の充実	学校行事や生徒会活動の充実を図り，ボランティア活動等の機会を取り入れることにより，豊かな人間性を育成する。 部活動の充実・活性化により，心身両面における成長を図るとともに，団結力や協調性を育成する。	①	生徒会活動についての積極的広報と生徒会活動への理解と協力を促す。	1	生徒会新聞の発行とホームページの更新を適宜行う。	生徒及び職員の生徒会活動に対する満足度を90％以上にする。	生徒会新聞の発行とHPの更新も適宜行った。また満足度は，生徒が92％，職員が100％であった。	A	A 部活動は限られた時間の中で，各部練習方法などを工夫して成果を上げている。 生徒会・部活動の活動も校内はもとより，貞光駅清掃や吉野川河川敷等の環境美化活動を定期的に行うことにより，地域の方から好感を持たれるとともに，生徒の豊かな人間性の育成の一翼を担っている。	新聞紙上やニュースで体育部，文化部などの活躍をよく目にしており，大変素晴らしいと感じている。また，コロナウイルスの影響で，現在部活動が全面的に禁止されており，全国選抜大会に出場を決めていた３部（ソフトテニス部，少林寺拳法部，レスリング部）の生徒も悲しんでいるだろうけども，気持ちを切り替えて次大会で頑張って欲しい。	礼儀正しい挨拶は，近隣の方々や来校される方々からも，褒めていただいている。引き続き挨拶運動に努めていく。 本年度は，全国大会に出場する部が多く，学校全体が活気づいた。引き続き部活動の活性化に繋がるように努めたい。また，部活動の入部率向上のために，さらに努力していく。 清掃活動は継続して続けていき，周辺地域に貢献していく。来年度以降も実施する。
				2	生徒会役員を中心とした挨拶運動を実施する。	挨拶運動を毎月1回実施する。	評価指標どおり毎月1回実施した。	A			
		②	各種委員会を活性化させる。	1	各種委員会が主体となった学校行事を実施する。	生徒及び職員の学校行事に対する満足度を90％以上にする。	満足度は生徒が96％で，職員が100％であった。	A			
		③	部活動への入部率及び継続率を向上させる。	1	部活動入部までの放課後の時間(見学できる時間)を確保する。	部活動入部率・継続率の向上(入部率は90％以上，1年間継続率は95％以上)	部活導入部率が96％，1年間継続率が95％であった。	A			
		④	部の活動に奉仕活動を加え，豊かな人間性の育成に努める。	1	各部活動が自主的に奉仕活動を実施する。	5部以上の部活動が奉仕活動を実施する。	JRC部，ラグビー部，サッカー部，ソフトテニス部，バスケットボール部，レスリング部などが奉仕活動を実施した。	A			
教育相談・特別支援教育の推進	学校全体での組織的支援体制及び関連機関との連携による支援体制の充実を図る。	①	一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る。	1	特別支援教育に関する職員研修会を実施する。	職員研修会を年2回行う。	「生徒理解のための職員会議」「心肺蘇生法とエピペン実技講習」を実施し，研修を深めた。	B	A 全職員を対象に「心肺蘇生法とエピペン実技講習会」を実施した。また，発達障がい者支援センターアイリスの方に文化祭に参加していただき，広報活動と相談の場を持った。個々の対象生徒に対しては，関係職員が情報の共有化を図り，連携を密にして指導することができた。	本年度，個別の支援計画が必要な生徒はいなかったようだが，今後は支援を要する生徒が入学してくることは十分にあるので，引き続き，全職員の支援教育の研修を深めるように努力して欲しい。本年度実施した帰国生徒の日本語指導，エピペン実技講習など，生徒個々に対応したきめ細かな取組は，引き続き行って欲しい。	特別支援教育の研修を充実させ，全教職員の理解を深め教育力向上を図っていく。また，様々な支援事業や発達障がい者支援センターアイリス等の機関と連携を深め，要支援時にすばやく対応できる体制を構築していく。全職員を対象に心肺蘇生法とエピペン実技講習会を実施し，緊急事態時に対応できるようにする。
				2	支援が必要な生徒には，個別の支援計画を立て，カウンセラーや専門機関と連携して支援を行う。	支援が必要な生徒に，個別の支援計画を立てる。	今年度，個別の支援計画が必要な生徒はいなかった。教育相談便りを年2回発行し，教育相談の案内を広報した。	A			
		②	教育相談活動の一層の充実を図る。	1	一人一人の生徒への声かけや定期的な個人面談による教育相談を行う。	生徒保健委員会を毎月開催するとともに，保健だよりを毎月発行し，保健に関する啓発活動を行う。	保健委員会は毎月開催，保健だよりは毎月発行した。保健室において，個人面談による教育相談を行った。	A			
				2	生徒一人一人の心身の状況を把握するために「悩み・心配事」の調査を行う。	「悩み・心配事」の調査を年2回実施する。	評価指標どおり年2回実施し，調査結果を教職員に報告し，情報の共有化を図った。	A			
環境・防災・安全教育の推進	環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る。 防災教育を推進し，災害発生時の支援活動等の実践力を育成する。	①	環境問題学習の一層の推進と啓発を進める。	1	環境保全活動啓発ポスターの作成・掲示を行うことにより，省エネ・エコ意識を高揚させ，節電・節水に努める。	エアコンの運転を，室内温度を観察しながら適切に行う。プルタブ，ペットボトルキャップの回収を徹底する。	あまり節約はできなかった。電力使用状況の可視化が必要。灯油の使用の適正化に注意が必要である。	B	A エネルギー教育は成果が見えやすいので,達成度がよくわかり,一層の教育の充実を図っていきたい。清掃活動はよく協力して行えている。AED使用については「できる」「おおむねできる」合わせて96％である。防災教育に関しては出来ているが，質を向上させることが必要である。	エネルギー教育を進めるにあたり，持続可能な社会の構築に向けての考えも視野に入れた教育を，今後も推進して欲しいし。しかし，省エネの数字を追いすぎず，生徒の教育環境を整えて生徒の体調を基準とする判断での節電を心がけてください。 自らの判断で命を守るとともに他者と助け合う力の育成に向け，工夫を凝らした防災教育を今後も継続して欲しい。	エネルギー教育について，どのような切迫した課題があるのかを具体的な機会を設定しながら取り組む必要がある。 清掃活動については，地域清掃の取組をさらに充実させたい。 防災教育については，マンネリ化しており，工夫を凝らし新たな訓練等考えなければならない状況であり質の向上に努める。
		②	校内・校外清掃の活性化を図る。	1	全職員による毎日の清掃指導を実施し，教室の清掃を徹底的に行い，清潔な学習環境を作る。	職員及び生徒の実施できている自己評価を95％以上にする。	達成できた。	A			
				2	生徒が利用している校外の施設等清掃活動を行い，地域の環境美化に努める。	年1回以上，貞光駅や吉野川周辺の清掃活動を行う。	実施できた。質の向上にも努めたい。	A			
		③	防災・安全教育を推進する。	1	防災訓練を実施する。	火災を想定した防災訓練とAED講習会を行う。	実施できた。質の向上にも努めたい。	A			
				2	AED講習会を実施する。	職員アンケート「AEDを使用できる」を95％以上にする。	達成できた。	A			

重点課題	重点目標 全体レベル	重点目標 下位組織レベル			活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
開かれた学校づくりの推進	保護者や地域社会との連携を密にし，学校教育活動全体にわたって地域の教育力を生かすとともに，ホームページ等を活用し積極的に情報発信を行う。		情報発信を積極的に行う。	1	ホームページを利用して，行事など生徒の活動や各種情報を発信する。	ホームページを更新し，最新情報を提供する。（更新回数70回以上）	ホームページは80回以上の更新を行った。(3月４日現在)	A	A ＰＴＡ総会，役員会，体育祭，ＰＴＡ研修会（研修旅行）等の各行事において多くの保護者の参加協力をいただいた。体育祭では昨年度に続き県内の障がい者支援施設と連携を図りＰＴＡバザーを行い好評であった。またＰＴＡで揃いのＴシャツを作成した。こちらもたいへん好評あった。ＰＴＡ研修会では４０名の方の参加をいただいた。 中学生体験入学やオープンスクールは大変好評で，中学校進学説明会でも熱心に話を聞いてくれており，手応えを感じている。一般選抜の出願者数は大変厳しい結果となった。県西部の急速な少子化や普通科志向を背景として今後も苦戦が予想される。	生徒の活躍を，様々なメディアを活用して，今後も積極的に情報発信に努め，地域に密着した学校であって欲しい。 来年度入学生の入試状況を見ると，電気科が非常に生徒集めに苦慮している。西部の人口減も大きな要因の一つと思うが，学校のPR活動も今まで以上に頑張って欲しい。 学校の特色を活かした取組や地域との連携による取組を推進することは，学校や地域の活性化にも繋がると思うので，今後も工夫を凝らして積極的に取り組んで欲しい。	PTA活動では，総会や役員会での出席率・参加率向上のため機会を捉えて啓発を行う。 生徒募集の面では，進学説明会，中学生体験入学，オープンスクール等を通じてPR活動を充実させていきたい。
				2	マスメディア等を通じて，学校情報を積極的に発信する。	徳島新聞，四国放送，NHK等に資料提供を積極的に行う。	徳島新聞等に59回，テレビ，ラジオにも複数回取り上げられ，本校生徒の活躍が紹介された。	A			
		②	PTA活動の活性化を図る。	1	PTA総会・役員会の活性化を図り，参加率を向上させる。	役員会40％以上，総会30％以上の参加を得る。	役員会は30．3％,総会は24.8％(近年では高率)の参加であった。	B			
				2	体育祭等の行事で，PTA家庭教育研修部による模擬店や展示を実施する。	体育祭等の行事において，PTA家庭教育研修部役員の参加率50％以上を得る。	PTA役員の参加率は75％であり，PTA役員以外の保護者も多数参加していただいた。	A			
		③	中学校との連携を図る。	1	中学生体験学習の充実を図る。	参加者アンケートにおいて「満足度」を90％以上にする。	参加中学生の96％が満足したと答えた。参加者のうち，今の時点で本校へ進学したいと答えた者は51％であったため，本校を知る良い機会となった。	A			
				2	中学校への進学説明会を充実する。	一般選抜の願書受付時点で，前年度以上の出願者数にする。	11月の時点で全体の定員に対し，－2名の進学希望があった。出願時には，電気科で－10名，他学科は±0となった。電気は－14→－10	B			
				3	オープンスクールの充実を図る。	参加者アンケートにおいて「満足度」を90％以上にする。	中学生は26名の参加があり，満足度は100％であった。	A			
地域と連携した専門教育の充実	６次産業化に向けた取組等により，地域貢献につながる実践力を育成する。	①	行政機関との連携強化を図る。	1	つるぎ町及び美馬市と連携した地域貢献活動を推進する。	つるぎ町や美馬市のイベントに参加し，地域のPR活動を行う。	うだつの町並みの吉田家住宅と道の駅貞光ゆうゆう館で「和傘と光のコラボレーション」を行った。また，LEDの展示や世界農業遺産のPR動画の上映などを行った。	A	A 「みまからトウガラシの６次産業化」や「美馬和傘制作」の活動，各種のイベントにおいて特産品の販売実習を行う等，関連した行政機関や地域，企業との連携を行い，地域のPR活動をグローバルに展開し，地域に貢献することができた。	地域と連携した取組が，本年度も新聞等のマスコミに多く取り上げられており，教員・生徒の努力を広報に繋がっているので，引き続き続けていって欲しい。特に，ドローン講習会開催やドローン撮影，インターネットショップ，アロマスプレーなど新しい試みも見られ，今後と連携し地域の特色を活かした取組に期待する。	「６次産業化プロデュース事業」で，精油抽出機製作・精油スプレー作りから販売までの一連の活動が成されたが，来年度はさらに販売の工夫を懲らすなど，活動を継続していきたい。また，和傘や美馬から商品のPR強化に向けても取り組んでいきたい。 美馬地域の特産物のPRに加え，ICT技術を駆使し，地域の魅力を発信していく。
		②	企業との連携強化を図る。	1	企業と連携した地域貢献活動を推進する。	美馬交流館と協力し，「みまから」の生産や販売に関する新しいアイデアを提案する。	日之出本店と連携し，ヤフーショッピングで「みまから」を使った商品「みまからサックリーフ」等のインターネットショップを開設・販売した。	A			
				2	販売実習・インターンシップ等を積極的に行い，職業・勤労意識を高める。	販売実習・インターシップ参加生徒の満足度を85％以上にする。	販売実習10名・インターンシップ19社68名が積極的に参加した。参加者の満足度は100％である。	A			
		③	地域との連携強化を図る。	1	商品開発・伝統工芸の継承や観光振興を地域と連携し活動を推進する。	「みまから」を使った商品開発，和紙を使った和傘作りや藍染体験を行う。	「みまから」を活用したを「みまから揚げパン」を考案、販売した。また，美馬和傘の制作も行った。	A			

重点課題	重点目標 全体レベル	重点目標 下位組織レベル		活動計画		評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
工業・商業教育の推進	各種競技会等へ積極的に参加し，国家資格，検定試験等に全力を挙げて取り組む。 スーパーオンリーワンハイスクール事業等の成果を生かし，グローバル化に対応したつるぎ高校ならではの教育を推進する。	①	3年間をとおして職業資格・検定の取得を行うと共に，各種競技会へ参加する。	1	3年間の資格・検定取得指導体制を取り，全校生徒が複数の資格・検定を取得する。	工業学会優秀生徒表彰(資格)を75%以上にする。 全国商業高等学校協会主催の検定3種目以上1級取得者を10%以上にする。 他科の資格・検定取得者数を10名以上にする。	工業学会優秀生徒表彰は122名中90名で73．8%となった。 全国商業高等学校協会主催検定3種目以上1級合格者は、22．7%であった。他科の資格・検定取得者は5名であった。	A	A 工業科商業科ともに資格・検定の取得に意欲的に取り組んでいる。また，専門分野における技術等の向上が図られ，各種競技会やコンテストにおいて全国大会に出場するなど成果を上げた。 工業科と商業科が協力して開発・改良を重ねてきたみまから栽培システムを使い、継続して活動した。	競技用ロボット，マイコンカーラリー・，珠算・電卓競技会，簿記コンクール，情報処理競技会では，強豪校揃いの四国大会で結果を残し，全国大会出場を果たしている。工業科商業科ともに成果を上げており，素晴らしいと思う。県西部地域における専門教育の中核となる本校生が，目標に向かって，日々一生懸命に取り組んだ成果であったと思う。今後も引き続き，地域と連携した特色ある学校づくりを目指してほしい。	全校体制で国家資格など，各種資格・検定試験合格に全力をあげて取り組むことを目標に，次年度も努力していく。 数々の大会に出場し，結果を残せた年となった。来年度はさらに専門教育の充実に努めるとともに探究心を深め，全国大会での上位進出を目指し取り組んでいく。
				2	競技用ロボット・マイコンカーラリー・ものづくりコンテスト大会・珠算電卓競技大会・簿記コンクール等に出場し，全国大会に出場する。	工業科・商業科とも全国大会へ，1種目以上出場する。	ジャパンマイコンカーラリー2019全国大会，全国高校生ロボット競技大会に連続出場をしている。また，珠算・電卓競技大会,簿記コンクール,情報処理競技会に出場を果たした。	A			
		②	工業科・商業科に渡る知識と技術を生かし，共同しながら特色ある教育を展開する。	1	地域の特産品の「みまから」等を教材とした実践的学習を確立する。	「みまから唐辛子栽培システム」を改良する。	学校プール横の空きスペースで，コンテナを活用したみまから唐辛子の栽培を継続して行った。	A			